

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」
 2021年度 国際共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2022年1月31日 提出

1. 研究課題名	
「鴨川古写真 GIS データベース」の構築と河川環境の変遷分析に関する研究 (英文標記: Study on Construction of "Old photograph GIS database on Kamo River" and Transition Analysis of River Environment)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
飯塚 公藤(いづか たかふさ)	近畿大学総合社会学部・准教授
3. 研究分担者 (合計: 5名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
矢野 桂司(やの けいじ)	立命館大学文学部・教授
谷端 郷(たにばた ごお)	北海学園大学人文学部・講師
大邑 潤三 (おおむら じゅんぞう)	東京大学地震研究所・助教
島本 多敬 (しまもと かずゆき)	滋賀県立琵琶湖博物館・学芸員
佐藤 弘隆 (さとう ひろたか)	立命館大学文学部・特任助教

4. 研究課題の概要 (300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
<p>本研究課題は、京都・鴨川に関する古写真を軸にしたデータ基盤「鴨川古写真 GIS データベース」を構築し、河川環境の変遷を読み解きながら鴨川と人々との関係史(主に近現代)を解明することである。これまで、河川環境を対象とした古写真の系統的な収集および分析手法は未確立であった。鴨川においても景観の変遷を古写真から明らかにする研究は少ない。そこで、近現代の京都に関わる古写真のデジタル・アーカイブを進めている立命館大学アート・リサーチセンターの古写真データベースを活用して、鴨川が映る古写真の撮影地点や写真に映る地物を同定して GIS データ化することで、河川環境の変遷を時系列的・空間的に分析することができるようになる。加えて、関連機関と連携して鴨川に関する古写真データベースの拡充も図る。</p>

5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

本研究の2021年度の研究成果として、以下の2点にまとめられる。

【1. 写真データベースの更新】

2021年度は2018・2019・2020年度にプラットフォームとして構築した「京都の河川景観 写真データベース」を用いて、掲載した写真の撮影地点を同定し、橋ごとに分類し、時系列に整理した。また、年代や撮影地点の異なる絵葉書類も新たに入手し、写真データベースの更新を図った。

【2. 鴨川の景観変化の分析およびGISデータ化】

各自で「京都の河川景観 写真データベース」の分析を進めつつ、Zoomを用いて鴨川景観研究会を4回実施した。最も古写真や絵葉書数が多く、幅広い年代のものが揃っている四条大橋を中心に分析を進め、河川敷の利用のあり方や川との距離感の変化などを読み解いた。さらに、鴨川の景観変化を追うためのGISデータ作成にも着手し、まずは撮影地点の特定を概ね完了した。次いで、古写真等に映る地物の情報を読み取り、GISデータ化するための議論も重ね、次年度本格的なGISデータを作成する目途が立った。また関連して、2021年度は、鴨川に関する年表や文献リストなど共同研究を進めていく上での必要な鴨川に関する基礎データの収集・整理にも着手した。

6. 研究業績 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

(1) 著書・共著・分担執筆

- ① 蔣湧・駒木伸比古・飯塚公藤『地域研究のための空間データ分析応用編』、共著、2022年3月、古今書院
- ② 鈴木康久監修『淀川水系河川絵図集成：近世絵図から河川の利用と管理を学ぶ』、一般財団法人近畿地域づくり研究所、2022年3月、島本多敬(分担執筆)
- ③ 加藤一誠・河原典史・飯塚公藤・河原和之『日本あっちこっちー「データ+地図」で読み解く地域のすがたー』、共著、2021年8月、清水書院、144頁
- ④ 植田憲司・衣川太一・佐藤洋一編『戦後京都の「色」はアメリカにあった!：カラー写真が描く《オキュパイド・ジャパン》とその後』、分担執筆、2021年7月、京都文化博物館、佐藤弘隆

(2) 論文

- ⑤ 佐藤弘隆「近代京都の都心部における家持ち率低下に伴う祇園祭山鉾行事への影響」、単著、2021年12月、学術シンポジウム開催報告書『都市祝祭ー歴史地理学者にはどうみえるのか?ー』、26-38頁、査読無(招待有)
- ⑥ 飯塚公藤「利根川の舟運ー江戸期と明治以降ー」、単著、2021年11月、地図情報41(3)、8-11頁、査読無
- ⑦ 大邑潤三・益野行輝・加納靖之「新たな史料で判明した1854年安政東海地震における甲府盆地の被害と震度」2021年9月、第38回歴史地震研究会(オンライン苦小牧大会)、査読無
- ⑧ Yasuyuki Kano, Junzo Ohmura, Kiyomi Iwahashi 「Evaluation of Damage Descriptions Around Mt. Hiei During the 1830 Kyoto Earthquake」、2021年8月、Joint Scientific Assembly IAGA-IASPEI 2021、査読無
- ⑨ Junzo Ohmura, Miki Hamano 「Aftershock Activity of the 1596 Earthquake in Kinki Region of Japan Revealed by Diaries」、2021年8月、Joint Scientific Assembly IAGA-IASPEI 2021、査読無
- ⑩ 大邑潤三・濱野未来・橋本雄太・加納靖之「歴史地震史料のGISデータ化の試みと課題」2021年6月、日本地球惑星科学連合2021年大会、査読無
- ⑪ 加納靖之・大邑潤三「歴史地震と気象庁カタログの連続性を考慮した震度データ点カタログ」2021年6月、日本地球惑星科学連合2021年大会、査読無
- ⑫ 服部健太郎・大邑潤三「明治3年4月13日(1870年5月13日)の小田原の被害地震及び前後の頻発地震を記した横浜の有感地震記録」2021年6月、日本地球惑星科学連合2021年大会、査読無

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

- ⑬ 飯塚公藤「講演：琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏における近代舟運の変遷」、琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪 兼 第22回近畿水環境交流会、2021年12月

(7) 科学研究費助成事業

- ⑭ 飯塚公藤「日英における近代水陸交通の地域的变化に関する歴史GIS研究」、若手研究、2021年4月-2025年3月、代表
- ⑮ 大邑潤三「歴史地震学の新展開ー地震史料のGIS分析ー」、若手研究、2021年4月-2024年3月、代表
- ⑯ 島本多敬「日本近世の河川管理システムにおける絵図の機能の解明」、若手研究、2021年4月-2026年3月、代表
- ⑰ 佐藤弘隆「祭礼存続のストラテジーに関する都市社会地理学的研究」、若手研究、2020年4月-2023年3月、代表